

2 統計的手法を用いた分析結果

(1) 子どもの生活行動や意識につながる「心を捉える視点」について ～因子分析～

目的

子どもの行動の内面にある意識「心」を捉えるため、生活状況の項目と意識調査の項目を合わせて、因子分析を行う。

手順 等

※1 分析対象項目は、本人の意識と行動を示す質問項目のみとし、保護者や他者の影響や結果と考えられる質問は除いた。

※2 相関が高いと考えられる学習時間、携帯・ゲームなどに関する項目は、代表的なものを選んだ。

※3 質問項目により、選択肢の数(尺度が違うため、全ての回答を標準化*した値を用いて分析を行った。

※4 因子数は、これまでの研究成果を踏まえ、あらかじめ「6」程度と想定して分析を行った。

※5 因子分析は、「最尤法」「プロマックス(斜交)回転」を用

※6 分析の過程で、因子負荷量が0.35未満になった項目

※7 分析は、IBM SPSS Statistics バージョン22を用いた。

* 平均が0、最大値1、最小値-1となるように値を変換すること

パターン行列^a

	因子					
	1	2	3	4	5	6
	自己有用感	学習意欲	自主・自律	規範意識	将来展望	協同性
(子)123生活を楽しいと思う	.718	-.038	.041	-.069	-.028	-.040
(子)3801わたしにはよいところがある	.615	.093	-.020	-.086	.054	-.002
(子)306学校に行くのは楽しい	.615	.047	.007	-.008	-.030	.061
(子)3818みんなわたしを嫌っているとは思わない	.597	-.114	-.057	.282	-.039	-.164
(子)3814誰もが私を大切にしてくれる	.554	-.068	-.059	.180	-.016	-.071
(子)3822誰かの役に立っていると思う	.533	.111	-.020	-.053	-.017	.135
(子)3812やればできると思う	.420	.121	.033	-.036	.065	.171
(子)3820信頼できる友達がいる	.410	-.151	-.001	-.040	.022	.199
(子)305意見発表は得意な方だ	.406	.185	-.048	-.160	.038	.039
(子)301自分から勉強する	.013	.749	.017	.045	-.050	-.020
(子)303勉強に意欲的に取り組む	.149	.724	.081	.020	-.014	-.045
(子)32普段の日に勉強する	-.063	.639	-.083	-.009	-.007	-.053
(子)302難しいことにも挑戦する	.314	.412	.092	-.061	.053	-.008
(子)02早い時刻に就寝する	.016	-.080	.929	-.009	.000	.024
(子)03睡眠時間が多い	.030	-.161	.856	.038	.006	.056
(子)28一日の携帯使用時間が少ない	-.028	.235	.466	-.011	-.068	-.148
(子)10本をたくさん読む	-.108	.144	.367	.013	.026	-.034
(子)3817かっとなってもものを壊さない	.003	-.105	-.020	.560	.014	.066
(子)3803乱暴な言葉は使わない	-.161	.131	.064	.559	-.010	-.076
(子)3806イライラしない	.187	-.071	-.018	.526	.004	-.037
(子)3808約束は守る	-.077	.048	.013	.493	.005	.047
(子)16家での決まりを守っている	-.126	.217	.010	.457	.053	.139
(子)121見てないところでもきまりを守る	-.046	.324	.012	.378	.017	.125
(子)3804わたしには夢がある	.056	-.038	.051	-.008	.963	-.096
(子)3809就きたい職業がある	-.040	-.008	-.069	.039	.776	.051
(子)3824人の気持ちの分かる人になりたい	.051	-.064	-.024	.121	.002	.678
(子)3821アドバイスする人との付き合い大切だ	.190	-.114	-.018	.011	-.084	.581
(子)3823最後までやり遂げてうれしかったことがある	.186	.089	.000	.022	.019	.470
(子)3816他の人がどう思っているか気にしない	.241	-.078	.006	.213	-.021	-.388

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

a. 8 回の反復で回転が収束しました。

因(子)相関行列

因(子)	1	2	3	4	5	6
自己有用感	1.000	.318	.262	.474	.306	.350
学習意欲	.318	1.000	.266	.282	.328	.364
自主・自律	.262	.266	1.000	.153	.171	.000
規範意識	.474	.282	.153	1.000	.036	.078
将来展望	.306	.328	.171	.036	1.000	.372
協同性	.350	.364	.000	.078	.372	1.000

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

(2) 子どもの生活の基本と生活行動との関連について ～階層的重回帰分析～

目的

「早寝する」「朝食で品目多く食べる」「家庭学習の時間が長い」の児童生徒の傾向を調べる。

手順

- ※1 分析対象項目は、保護者の関わりが強い項目と、相関がとて強いと考えられる項目(重複)は除いた。
 ※2 「学年」と「性別」による影響を除くために、第1ブロック(階層)に「学年」と「性別」を投入して分析を行った。
 ※3 回帰分析では、線形、ステップワイズ方式を用いた。
 ※4 結果の表(係数a)中の、(定数)、学年、性別、及び、逆転した結果となった項目(t値が負)は、網掛けで示した。

「早寝」する子どもの傾向

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
11	.852 ^k	.727	.720	.52311410

k. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)03睡眠時間が多い、(子)05朝自分で起きる、(子)301自分から勉強する、(子)36習い事にたくさん通っている、(子)26一日のゲーム時間が少ない、(子)3808約束は守る、(子)07夕食の時刻が早い、(子)32普段の日に勉強する、(子)3816他の人がどう思っているか気にしない、(子)31学校の授業は分かる。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
11	(定数)	2.024	.156		12.954	.000
	学年	-.572	.043	-.439	-13.202	.000
	性別	-.176	.049	-.089	-3.606	.000
	(子)03睡眠時間が多い	.441	.031	.444	14.188	.000
	(子)05朝自分で起きる	.104	.023	.107	4.560	.000
	(子)26一日のゲーム時間が少ない	.108	.028	.100	3.801	.000
	(子)301自分から勉強する	.081	.028	.076	2.920	.004
	(子)3808約束は守る	.067	.023	.069	2.900	.004
	(子)07夕食の時刻が早い	.065	.025	.064	2.620	.009
	(子)31学校の授業は分かる	.058	.027	.055	2.134	.033
	(子)3816他の人がどう思っているか気にしない	-.054	.023	-.055	-2.340	.020
	(子)32普段の日に勉強する	-.084	.029	-.077	-2.835	.005
	(子)36習い事にたくさん通っている	-.089	.029	-.078	-3.070	.002

a. 従属変数 (子)02早い時刻に就寝する

「朝食で品目多く食べる」子どもの傾向

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
8	.426 ^h	.182	.168	.90988706

h. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)111おはようなどのあいさつする、(子)113部屋の掃除自分でする、(子)114新聞を読む、(子)32普段の日に勉強する、(子)3814誰もが私を大切にしてくれる、(子)3823最後までやり遂げてうれしかったことがある、(子)02早い時刻に就寝する)。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
8	(定数)	.022	.259		.083	.934
	学年	-.039	.075	-.030	-.523	.601
	性別	-.007	.081	-.004	-.092	.927
	(子)111おはようなどのあいさつする	.182	.046	.164	3.985	.000
	(子)32普段の日に勉強する	.152	.045	.139	3.384	.001
	(子)114新聞を読む	.130	.039	.138	3.372	.001
	(子)113部屋の掃除自分でする	.135	.041	.137	3.283	.001
	(子)3823最後までやり遂げてうれしかったことがある	.108	.048	.093	2.268	.024
	(子)02早い時刻に就寝する	.132	.058	.131	2.255	.025
	(子)3814誰もが私を大切にしてくれる	.094	.042	.091	2.255	.025

a. 従属変数 (子)06朝食色々食べる

「家庭学習の時間が長い」子どもの傾向

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
13	.648 ^m	.420	.404	.70248068

m. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)37学習塾にたくさん通っている、(子)301自分から勉強する、(子)09テレビ視聴時間が少ない、(子)123生活を楽しいと思う、(子)303勉強に意欲的に取り組む、(子)06朝食色々食べる、(子)02早い時刻に就寝する、(子)128パジャマに着替えて寝る、(子)124生活を忙しいと思う、(子)07夕食の時刻が早い、(子)25ゲームをする日数が少ない、(子)3803乱暴な言葉は使わない。

係数^a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.433	.219		1.976	.049
学年	-.051	.062	-.043	-.823	.411
性別	.001	.066	.000	.008	.993
(子)37学習塾にたくさん通っている	.382	.032	.417	11.870	.000
(子)301自分から勉強する	.190	.042	.193	4.493	.000
(子)06朝食色々食べる	.099	.032	.109	3.098	.002
(子)124生活を忙しいと思う	.096	.032	.102	2.952	.003
(子)128パジャマに着替えて寝る	.121	.041	.103	2.923	.004
(子)303勉強に意欲的に取り組む	.107	.041	.115	2.610	.009
(子)07夕食の時刻が早い	.072	.034	.076	2.148	.032
(子)25ゲームをする日数が少ない	.072	.036	.075	1.993	.047
(子)3803乱暴な言葉は使わない	.063	.032	.070	1.987	.047
(子)09テレビ視聴時間が少ない	-.071	.035	-.074	-2.034	.042
(子)02早い時刻に就寝する	-.157	.048	-.171	-3.297	.001
(子)123生活を楽しいと思う	-.112	.033	-.118	-3.393	.001

a. 従属変数 (子)32普段の日に勉強する

(3) 6つの視点と保護者の関わりとの関連について ～階層的重回帰分析～

目的 「早寝する」「朝食で品目多く食べる」「家庭学習の時間が長い」の児童生徒の傾向を調べる。

- 手順 1 分析対象項目は、保護者の関わりが強い項目と、相関がとても強いと考えられる項目(重複)は除いた。
 2 「学年」と「性別」による影響を除くために、第1ブロック(階層)に「学年」と「性別」を投入して分析を行った。
 3 重回帰分析では、線形、ステップワイズ方式を用いた。
 4 結果の表(係数a)中の、(定数)、学年、性別、及び、逆転した結果となった項目(t値が負)は、網掛けで示した。

子どもの「自己有用感」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
12	.568 ¹	.323	.314	.51414

1. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)132家族は誉めてくれる、(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う、(子)127地域の人から誉められる、(保)C1910友達を大切にするように言っている、(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う、(保)C1919先生のことを(子)どもの前でほめる、(子)3825地域の人と一緒にすることがある、(保)B1801勉強しなさいと声をかける、(保)B1805授業の内容を話題にする、(保)B1810読書を勧めている、(保)B1808勉強は大切だと話す。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
12	(定数)	.219	.086		2.544	.011
	学年	-.026	.022	-.034	-1.185	.236
	性別	-.089	.033	-.071	-2.710	.007
	(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う	.128	.020	.206	6.309	.000
	(子)132家族は誉めてくれる	.121	.020	.198	6.095	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.103	.018	.168	5.841	.000
	(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う	.059	.020	.095	2.965	.003
	(保)C1910友達を大切にするように言っている	.047	.018	.069	2.583	.010
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.042	.017	.068	2.387	.017
	(保)C1919先生のことを(子)どもの前でほめる	.041	.018	.063	2.288	.022
	(保)B1808勉強は大切だと話す	.042	.019	.064	2.232	.026
	(保)B1805授業の内容を話題にする	.039	.017	.062	2.220	.027
	(保)B1810読書を勧めている	-.050	.018	-.078	-2.732	.006
	(保)B1801勉強しなさいと声をかける	-.048	.017	-.075	-2.763	.006

a. 従属変数 自己有用感 8 項目

子どもの「規範意識」と関連のある保護者の関わり ～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
12	.547 ¹	.299	.289	.53412

1. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)15被注意時に素直に返事する、(子)132家族は誉めてくれる、(子)122生活の仕方で注意される、(子)127地域の人から誉められる、(子)14被注意時に納得する、(保)C1906(子)どもの居場所を把握している、(保)C1912自分でさせるようにしている、(保)C1920通知類は必ず目をとおす、(保)A0102朝一人で起こさせる、(子)131家族はよく話を聞いてくれる、(子)134家族は勉強しなさいと言う。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
12	(定数)	-.281	.089		-3.157	.002
	学年	.024	.024	.030	1.014	.311
	性別	.142	.037	.113	3.900	.000
	(子)15被注意時に素直に返事する	.129	.020	.206	6.530	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.085	.019	.134	4.418	.000
	(子)132家族は誉めてくれる	.098	.022	.154	4.376	.000
	(子)14被注意時に納得する	.077	.021	.120	3.704	.000
	(保)C1906(子)どもの居場所を把握している	.066	.022	.092	3.046	.002
	(保)C1920通知類は必ず目をとおす	.051	.021	.073	2.466	.014
	(保)A0102朝一人で起こさせる	.044	.019	.067	2.273	.023
	(子)131家族はよく話を聞いてくれる	.049	.022	.076	2.195	.028
	(子)134家族は勉強しなさいと言う	-.040	.019	-.063	-2.070	.039
	(保)C1912自分でさせるようにしている	-.070	.019	-.108	-3.600	.000
	(子)122生活の仕方で注意される	-.111	.020	-.168	-5.662	.000

a. 従属変数 規範意識 6 項目

子どもの「自主・自律」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
11	.818 ^k	.669	.665	.42672

k. 予測値: (定数)、性別、学年、(保)A06早く寝るように言っている、(子)15被注意時に素直に返事する、(保)B1811新聞を勧めている、(保)A0103朝食を食べさせる、(子)127地域の人から誉められる、(保)C1911人に迷惑をかけないように言っている、(保)B1802質問に来たとき答える、(子)134家族は勉強しなさいと言う、(子)135家族は学校行事によく来る、(保)B1810読書を勧めている。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
11	(定数)	1.335	.091		14.606	.000
	学年	-.448	.027	-.484	-16.382	.000
	性別	.028	.027	.019	1.049	.294
	(保)A06早く寝るように言っている	.231	.019	.312	11.940	.000
	(子)15被注意時に素直に返事する	.053	.013	.073	3.922	.000
	(保)A0103朝食を食べさせる	.049	.015	.062	3.308	.001
	(子)127地域の人から誉められる	.044	.014	.060	3.191	.001
	(保)B1811新聞を勧めている	.037	.016	.050	2.366	.018
	(子)135家族は学校行事によく来る	.039	.017	.048	2.344	.019
	(保)B1810読書を勧めている	.036	.016	.048	2.254	.024
	(保)B1802質問に来たとき答える	.035	.016	.044	2.100	.036
	(子)134家族は勉強しなさいと言う	-.035	.014	-.047	-2.500	.013
	(保)C1911人に迷惑をかけないように言っている	-.050	.015	-.063	-3.405	.001

a. 従属変数 自主自律 4 項目

子どもの「協同性」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
7	.446 ^g	.199	.193	.60730

g. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)133家族は叱ってくれる、(子)132家族は誉めてくれる、(子)127地域の人から誉められる、(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う、(子)3825地域の人と一緒にすることがある、(保)C1920通知類は必ず目をとす。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
7	(定数)	-.531	.096		-5.551	.000
	学年	.124	.025	.146	5.031	.000
	性別	.117	.038	.087	3.083	.002
	(子)133家族は叱ってくれる	.150	.021	.214	7.156	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.095	.020	.141	4.622	.000
	(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う	.082	.023	.120	3.589	.000
	(子)132家族は誉めてくれる	.072	.023	.108	3.183	.001
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.058	.020	.087	2.871	.004
	(保)C1920通知類は必ず目をとす	.051	.020	.071	2.563	.011

a. 従属変数 協同性 4 項目

子どもの「学習意欲」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
18	.544 ^f	.296	.283	.62752

r. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)127地域の人から誉められる、(保)B1804間違えた問題をやり直させる、(子)132家族は誉めてくれる、(保)B1801勉強しなさいと声をかける、(保)B15平日長時間勉強するように言っている、(保)A06早く寝るように言っている、(子)15被注意時に素直に返事する、(保)B1805授業の内容を話題にする、(保)A0103朝食を食べさせる、(子)135家族は学校行事によく来る、(子)134家族は勉強しなさいと言う、(保)B1806一緒に宿題や学習をする、(保)B1808勉強は大切だと話す、(保)A0101あいさつをさせている、(保)C1916時間を上手に使う工夫をさせている、(保)C1912自分でさせるようにしている、(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
18	(定数)	.674	.133		5.071	.000
	学年	-.245	.039	-.263	-6.286	.000
	性別	.025	.040	.017	.643	.520
	(子)127地域の人から誉められる	.169	.021	.229	8.132	.000
	(保)B1804間違えた問題をやり直させる	.103	.023	.136	4.407	.000
	(保)B15平日長時間勉強するように言っている	.098	.023	.127	4.357	.000
	(保)A0103朝食を食べさせる	.069	.022	.086	3.210	.001
	(子)132家族は誉めてくれる	.071	.024	.097	3.004	.003
	(保)C1916時間を上手に使う工夫をさせている	.062	.022	.083	2.822	.005
	(保)B1805授業の内容を話題にする	.063	.023	.084	2.731	.006
	(子)15被注意時に素直に返事する	.048	.020	.066	2.421	.016
	(子)135家族は学校行事によく来る	.059	.025	.073	2.417	.016
	(保)B1808勉強は大切だと話す	.054	.023	.068	2.380	.017
	(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う	.054	.024	.072	2.279	.023
	(保)A0101あいさつをさせている	-.049	.022	-.061	-2.183	.029
	(保)B1806一緒に宿題や学習をする	-.062	.024	-.084	-2.517	.012
	(保)C1912自分でさせるようにしている	-.053	.021	-.072	-2.536	.011
	(保)A06早く寝るように言っている	-.090	.028	-.121	-3.225	.001
	(子)134家族は勉強しなさいと言う	-.075	.023	-.099	-3.316	.001
	(保)B1801勉強しなさいと声をかける	-.106	.024	-.140	-4.417	.000

a. 従属変数 学習意欲 4 項目

子どもの「将来展望」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
6	.325 ^f	.105	.099	.87725

f. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)127地域の人から誉められる、(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う、(子)3825地域の人と一緒にすることがある、(子)131家族はよく話を聞いてくれる、(保)B1804間違えた問題をやり直させる。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
6	(定数)	-.050	.141		-.357	.721
	学年	-.081	.036	-.069	-2.220	.027
	性別	.180	.055	.097	3.288	.001
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.108	.029	.119	3.728	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.100	.029	.109	3.401	.001
	(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う	.095	.031	.102	3.074	.002
	(子)131家族はよく話を聞いてくれる	.066	.030	.072	2.224	.026
	(保)B1804間違えた問題をやり直させる	.062	.028	.065	2.186	.029

a. 従属変数 将来展望 2 項目

(3) 6つの視点と保護者の関わりとの関連について ～階層的重回帰分析～

目的 「早寝する」「朝食で品目多く食べる」「家庭学習の時間が長い」の児童生徒の傾向を調べる。

- 手順 1 分析対象項目は、保護者の関わりが強い項目と、相関がとても強いと考えられる項目(重複)は除いた。
 2 「学年」と「性別」による影響を除くために、第1ブロック(階層)に「学年」と「性別」を投入して分析を行った。
 3 重回帰分析では、線形、ステップワイズ方式を用いた。
 4 結果の表(係数a)中の、(定数)、学年、性別、及び、逆転した結果となった項目(t値が負)は、網掛けで示した。

子どもの「自己有用感」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
12	.568 ¹	.323	.314	.51414

1. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)132家族は誉めてくれる、(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う、(子)127地域の人から誉められる、(保)C1910友達を大切にするように言っている、(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う、(保)C1919先生のことを(子)どもの前でほめる、(子)3825地域の人と一緒にすることがある、(保)B1801勉強しなさいと声をかける、(保)B1805授業の内容を話題にする、(保)B1810読書を勧めている、(保)B1808勉強は大切だと話す。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
12	(定数)	.219	.086		2.544	.011
	学年	-.026	.022	-.034	-1.185	.236
	性別	-.089	.033	-.071	-2.710	.007
	(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う	.128	.020	.206	6.309	.000
	(子)132家族は誉めてくれる	.121	.020	.198	6.095	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.103	.018	.168	5.841	.000
	(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う	.059	.020	.095	2.965	.003
	(保)C1910友達を大切にするように言っている	.047	.018	.069	2.583	.010
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.042	.017	.068	2.387	.017
	(保)C1919先生のことを(子)どもの前でほめる	.041	.018	.063	2.288	.022
	(保)B1808勉強は大切だと話す	.042	.019	.064	2.232	.026
	(保)B1805授業の内容を話題にする	.039	.017	.062	2.220	.027
	(保)B1810読書を勧めている	-.050	.018	-.078	-2.732	.006
	(保)B1801勉強しなさいと声をかける	-.048	.017	-.075	-2.763	.006

a. 従属変数 自己有用感 8 項目

子どもの「規範意識」と関連のある保護者の関わり ～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
12	.547 ¹	.299	.289	.53412

1. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)15被注意時に素直に返事する、(子)132家族は誉めてくれる、(子)122生活の仕方で注意される、(子)127地域の人から誉められる、(子)14被注意時に納得する、(保)C1906(子)どもの居場所を把握している、(保)C1912自分でさせるようにしている、(保)C1920通知類は必ず目をとおす、(保)A0102朝一人で起こさせる、(子)131家族はよく話を聞いてくれる、(子)134家族は勉強しなさいと言う。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
12	(定数)	-.281	.089		-3.157	.002
	学年	.024	.024	.030	1.014	.311
	性別	.142	.037	.113	3.900	.000
	(子)15被注意時に素直に返事する	.129	.020	.206	6.530	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.085	.019	.134	4.418	.000
	(子)132家族は誉めてくれる	.098	.022	.154	4.376	.000
	(子)14被注意時に納得する	.077	.021	.120	3.704	.000
	(保)C1906(子)どもの居場所を把握している	.066	.022	.092	3.046	.002
	(保)C1920通知類は必ず目をとおす	.051	.021	.073	2.466	.014
	(保)A0102朝一人で起こさせる	.044	.019	.067	2.273	.023
	(子)131家族はよく話を聞いてくれる	.049	.022	.076	2.195	.028
	(子)134家族は勉強しなさいと言う	-.040	.019	-.063	-2.070	.039
	(保)C1912自分でさせるようにしている	-.070	.019	-.108	-3.600	.000
	(子)122生活の仕方で注意される	-.111	.020	-.168	-5.662	.000

a. 従属変数 規範意識 6 項目

子どもの「自主・自律」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
11	.818 ^k	.669	.665	.42672

k. 予測値: (定数)、性別、学年、(保)A06早く寝るように言っている、(子)15被注意時に素直に返事する、(保)B1811新聞を勧めている、(保)A0103朝食を食べさせる、(子)127地域の人から誉められる、(保)C1911人に迷惑をかけないように言っている、(保)B1802質問に来たとき答える、(子)134家族は勉強しなさいと言う、(子)135家族は学校行事によく来る、(保)B1810読書を勧めている。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
11	(定数)	1.335	.091		14.606	.000
	学年	-.448	.027	-.484	-16.382	.000
	性別	.028	.027	.019	1.049	.294
	(保)A06早く寝るように言っている	.231	.019	.312	11.940	.000
	(子)15被注意時に素直に返事する	.053	.013	.073	3.922	.000
	(保)A0103朝食を食べさせる	.049	.015	.062	3.308	.001
	(子)127地域の人から誉められる	.044	.014	.060	3.191	.001
	(保)B1811新聞を勧めている	.037	.016	.050	2.366	.018
	(子)135家族は学校行事によく来る	.039	.017	.048	2.344	.019
	(保)B1810読書を勧めている	.036	.016	.048	2.254	.024
	(保)B1802質問に来たとき答える	.035	.016	.044	2.100	.036
	(子)134家族は勉強しなさいと言う	-.035	.014	-.047	-2.500	.013
	(保)C1911人に迷惑をかけないように言っている	-.050	.015	-.063	-3.405	.001

a. 従属変数 自主自律 4 項目

子どもの「協同性」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
7	.446 ^g	.199	.193	.60730

g. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)133家族は叱ってくれる、(子)132家族は誉めてくれる、(子)127地域の人から誉められる、(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う、(子)3825地域の人と一緒にすることがある、(保)C1920通知類は必ず目をとす。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
7	(定数)	-.531	.096		-5.551	.000
	学年	.124	.025	.146	5.031	.000
	性別	.117	.038	.087	3.083	.002
	(子)133家族は叱ってくれる	.150	.021	.214	7.156	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.095	.020	.141	4.622	.000
	(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う	.082	.023	.120	3.589	.000
	(子)132家族は誉めてくれる	.072	.023	.108	3.183	.001
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.058	.020	.087	2.871	.004
	(保)C1920通知類は必ず目をとす	.051	.020	.071	2.563	.011

a. 従属変数 協同性 4 項目

子どもの「学習意欲」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
18	.544 ^f	.296	.283	.62752

r. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)127地域の人から誉められる、(保)B1804間違えた問題をやり直させる、(子)132家族は誉めてくれる、(保)B1801勉強しなさいと声をかける、(保)B15平日長時間勉強するように言っている、(保)A06早く寝るように言っている、(子)15被注意時に素直に返事する、(保)B1805授業の内容を話題にする、(保)A0103朝食を食べさせる、(子)135家族は学校行事によく来る、(子)134家族は勉強しなさいと言う、(保)B1806一緒に宿題や学習をする、(保)B1808勉強は大切だと話す、(保)A0101あいさつをさせている、(保)C1916時間を上手に使う工夫をさせている、(保)C1912自分でさせるようにしている、(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
18	(定数)	.674	.133		5.071	.000
	学年	-.245	.039	-.263	-6.286	.000
	性別	.025	.040	.017	.643	.520
	(子)127地域の人から誉められる	.169	.021	.229	8.132	.000
	(保)B1804間違えた問題をやり直させる	.103	.023	.136	4.407	.000
	(保)B15平日長時間勉強するように言っている	.098	.023	.127	4.357	.000
	(保)A0103朝食を食べさせる	.069	.022	.086	3.210	.001
	(子)132家族は誉めてくれる	.071	.024	.097	3.004	.003
	(保)C1916時間を上手に使う工夫をさせている	.062	.022	.083	2.822	.005
	(保)B1805授業の内容を話題にする	.063	.023	.084	2.731	.006
	(子)15被注意時に素直に返事する	.048	.020	.066	2.421	.016
	(子)135家族は学校行事によく来る	.059	.025	.073	2.417	.016
	(保)B1808勉強は大切だと話す	.054	.023	.068	2.380	.017
	(子)136家族はあなたのことを考えてくれていると思う	.054	.024	.072	2.279	.023
	(保)A0101あいさつをさせている	-.049	.022	-.061	-2.183	.029
	(保)B1806一緒に宿題や学習をする	-.062	.024	-.084	-2.517	.012
	(保)C1912自分でさせるようにしている	-.053	.021	-.072	-2.536	.011
	(保)A06早く寝るように言っている	-.090	.028	-.121	-3.225	.001
	(子)134家族は勉強しなさいと言う	-.075	.023	-.099	-3.316	.001
	(保)B1801勉強しなさいと声をかける	-.106	.024	-.140	-4.417	.000

a. 従属変数 学習意欲 4 項目

子どもの「将来展望」と関連のある保護者の関わり ～階層的重回帰分析～

モデルの要約

モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
6	.325 ^f	.105	.099	.87725

f. 予測値: (定数)、性別、学年、(子)127地域の人から誉められる、(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う、(子)3825地域の人と一緒にすることがある、(子)131家族はよく話を聞いてくれる、(保)B1804間違えた問題をやり直させる。

係数^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
6	(定数)	-.050	.141		-.357	.721
	学年	-.081	.036	-.069	-2.220	.027
	性別	.180	.055	.097	3.288	.001
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.108	.029	.119	3.728	.000
	(子)127地域の人から誉められる	.100	.029	.109	3.401	.001
	(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う	.095	.031	.102	3.074	.002
	(子)131家族はよく話を聞いてくれる	.066	.030	.072	2.224	.026
	(保)B1804間違えた問題をやり直させる	.062	.028	.065	2.186	.029

a. 従属変数 将来展望 2 項目

(4) 子どもと保護者の傾向の確認について ～クロス集計～

(子)02早い時刻に就寝する と (子)12-③生活を楽しいと思う のクロス表

度数

		(子)123生活を楽しいと思う				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)02早い時刻に就寝する	午後9時より前 n=21	14	5	1	1	21
	午後9時ごろ n=191	116	52	17	6	191
	午後10時ごろ n=439	232	152	50	5	439
	午後11時ごろ n=417	193	163	46	15	417
	午前0時ごろ n=391	153	161	61	16	391
	午前1時過ぎ n=106	26	49	22	9	106
合計		734	582	197	52	1565

(子)06朝食色々食べる と (子)30-③勉強に意欲的に取り組む のクロス表

度数

		(子)303勉強に意欲的に取り組む				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)06朝食色々食べる	5種類 n=145	30	53	53	9	145
	4種類 n=291	44	130	90	27	291
	3種類 n=475	51	183	188	53	475
	2種類 n=403	32	123	180	68	403
	1種類 n=195	15	46	84	50	195
	食べない n=31	4	2	7	18	31
合計		176	537	602	225	1540

(子)30-③勉強に意欲的に取り組む と (子)12-①見てないところでもきまりを守る のクロス表

度数

		(子)121見てないところでもきまりを守る				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)303勉強に意欲的に取り組む	あてはまる n=179	110	64	4	1	179
	どちらかという とあてはまる n=541	227	298	13	3	541
	どちらかという とあてはまらない n=608	135	391	80	2	608
	あてはまらない n=229	39	116	58	16	229
	合計	511	869	155	22	1557

(子)30-①自分から勉強する と (子)13-②家族は誉めてくれる のクロス表

度数

		(子)132家族は誉めてくれる				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)301自分から勉強する	あてはまる n=388	149	159	58	22	388
	どちらかという とあてはまる n=527	121	256	130	20	527
	どちらかという とあてはまらない n=429	105	173	129	22	429
	あてはまらない n=213	33	77	65	38	213
	合計	408	665	382	102	1557

(子)38-⑦誰かの役に立っていると思う と (子)13-②家族は誉めてくれる のクロス表

度数

		(子)132家族は誉めてくれる				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)3822誰かの役に立っていると思う	あてはまる n=244	130	72	29	13	244
	どちらかという とあてはまる n=663	191	322	127	23	663
	どちらかという とあてはまらない n=532	75	237	186	34	532
	あてはまらない n=123	16	37	40	30	123
	合計	412	668	382	100	1562

(子)12-①見てないところでもきまりを守る と (子)13-①家族はよく話を聞いてくれる のクロス表

度数

		子131家族はよく話を聞いてくれる				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)121見てないところでもきまりを守る	あてはまる n=515	304	151	38	22	515
	どちらかという とあてはまる n=877	314	417	132	14	877
	どちらかという とあてはまらない n=155	44	52	45	14	155
	あてはまらない n=23	8	10	3	2	23
	合計	670	630	218	52	1570

(子)12-⑤時間を上手に使うよう心掛ける と (保)B18-⑩読書を勧めている のクロス表

度数

		(保)B1810読書を勧めている				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)125時間を上手に使うよう心掛ける	あてはまる n=357	125	126	56	37	357
	どちらかという とあてはまる n=642	177	223	156	64	642
	どちらかという とあてはまらない n=468	116	154	118	59	468
	あてはまらない n=99	22	31	28	13	99
	合計	440	534	358	173	1566

(子)38-④人の気持ちの分かる人になりたい と (子)13-③家族は叱ってくれる のクロス表

度数

		(子)133家族は叱ってくれる				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)3824人の気持ちの分かる人になりたい	あてはまる n=1092	711	308	61	12	1092
	どちらかという とあてはまる n=376	147	179	41	9	376
	どちらかという とあてはまらない n=74	26	37	10	1	74
	あてはまらない n=20	8	6	3	3	20
	合計	892	530	115	25	1562

(子)13-①家族はよく話を聞いてくれる と (子)13-⑦家族はあなたのことなら分かっていると思う のクロス表

度数

		(子)137家族はあなたのことなら分かっていると思う				合計
		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない	
(子)131家族はよく話を聞いてくれる	あてはまる n=670	332	262	62	14	670
	どちらかという とあてはまる n=630	128	321	155	26	630
	どちらかという とあてはまらない n=218	22	59	94	43	218
	あてはまらない n=52	7	8	11	26	52
	合計	489	650	322	109	1570

(5) その他の分析結果

「(子)38-⑩お腹や頭は痛くならない+(子)38-⑨気持ち悪くならない」と関連のある子どもの傾向や保護者の関わり

モデル		係数 ^a			t	有意確率
		標準化されていない係数 B	標準誤差	標準化係数 ベータ		
10	(定数)	.735	.313		2.352	.020
	学年	-.128	.088	-.113	-1.450	.149
	性別	-.242	.111	-.157	-2.173	.031
	(保)C1912自分でさせるようにしている	.194	.056	.239	3.466	.001
	(子)306学校に行くのは楽しい	.187	.064	.209	2.939	.004
	(子)19保健室を利用しない	.167	.058	.212	2.864	.005
	(子)111おはようなどのあいさつする	.182	.068	.184	2.663	.009
	(子)25ゲームをする日数が少ない	.161	.061	.189	2.615	.010
	(子)3807意見の違う人とも和やかに話せる	.123	.059	.152	2.092	.038
	(子)124生活を忙しいと思う	-.144	.054	-.182	-2.669	.008

a. 従属変数 「お腹や頭は痛くならない」+「気持ち悪くならない」の合成変数

「(子)12-⑦地域の人から誉められる」と関連のある子どもの傾向や保護者の関わり

モデル		係数 ^a			t	有意確率
		標準化されていない係数 B	標準誤差	標準化係数 ベータ		
13	(定数)	.961	.337		2.847	.005
	学年	-.207	.098	-.150	-2.099	.037
	性別	-.202	.110	-.108	-1.839	.068
	(子)305意見発表は得意な方だ	.348	.056	.371	6.174	.000
	(子)3825地域の人と一緒にすることがある	.242	.056	.257	4.354	.000
	(子)3813友達に注意する	.179	.062	.181	2.887	.004
	(子)3819気持ち悪くならない	.183	.066	.165	2.783	.006
	(子)3812やればできると思う	.154	.061	.160	2.516	.013
	(保)A0101あいさつをさせている	.160	.064	.142	2.492	.014
	(子)132家族は誉めてくれる	.145	.060	.157	2.413	.017
	(子)08家の手伝いをする日が多い	.138	.060	.135	2.291	.023
	(子)3804わたしには夢がある	-.133	.064	-.139	-2.093	.038
	(子)3802誘われても断れる	-.130	.054	-.136	-2.392	.018
	(保)B1802質問に来たとき答える	-.175	.069	-.166	-2.551	.012
	(子)28一日の携帯使用時間が少ない	-.299	.070	-.277	-4.286	.000

a. 従属変数 (子)12-⑦地域の人から誉められる

「(子)38-⑪いじめはいけないと思う」と関連のある子どもの傾向や保護者の関わり

モデル		係数 ^a			t	有意確率
		標準化されていない係数 B	標準誤差	標準化係数 ベータ		
3	(定数)	-.137	.390		-.350	.727
	学年	-.065	.108	-.046	-.595	.552
	性別	.211	.149	.109	1.417	.159
	(子)127地域の人から誉められる	.198	.079	.193	2.516	.013
		.173	.084	.158	2.072	.040

a. 従属変数 (子)38-⑪いじめはいけないと思う